



[特集:アトピー性皮膚炎の対処法]

先月の新聞でアトピー性皮膚炎の発生機序や悪化因子を踏まえて症状の話が中心でした。今月は、気を付けたい合併症と共に治療、対処方法をお話します。

アトピー性皮膚炎の悪化因子の中に「花粉やホコリ、ダニ、ハウスダスト」等が挙げられている事からも分かるように、アレルギー性の結膜炎、鼻炎、気管支喘息、春季カタル(※1)などが併発しやすい病気としてあります。重要な合併症には、網膜剥離による失明や入院が必要になるカポジ水痘様発疹症(※2)、伝染性軟属種(※3)、伝染性膿痂疹(※4)などがあります。早期発見できるように、こまめに全身を観察するようにしましょう。

- (※1) 春季カタル…春から夏にかけてみられる重症のアレルギー性結膜炎の事。点状表層角膜症、角膜びらん、潰瘍、角膜の混濁、血管侵入などの重い角膜障害を合併する事があります。まぶたの皮膚炎がなかなか治らない事もあります。
- (※2) カポジ水痘様発疹症…アトピー性皮膚炎のバリア機能が低下した肌に、ヘルペスウイルスが感染して起こります。時に高熱が出て、入院が必要な時もあります。
- (※3) 伝染性軟属種…子どもによく見られる「水いぼ」で、ウイルスによる皮膚感染症です。
- (※4) 子どもに多く発症し夏場によく見られる「とびひ」です。細菌の感染で起こる病気です。抗生物質の内服、外用が必要です。

◎現状のアトピー性皮膚炎の治療は、4つの原則(「痒みへの対処」「保湿」「悪化因子の除去」「患者教育」)を基に進めていきます。

<痒みへの対処>

炎症の程度や初期の治療は、副腎皮質ホルモン(ステロイド薬)と免疫調整薬の2つの外用薬を用い、炎症を抑え、痒み止めの抗ヒスタミン薬や抗アレルギー薬を足していきます(リアクティブ療法)。症状が治まりぶり返しを少なくする為に、プロアクティブ療法(※5)を行います。できるだけ皮疹を長期間悪化させ続けられない事が重要です。時に、黄色ブドウ球菌の感染が皮膚炎の原因である場合はブリーチバス療法という新しい治療法(※6)が始まっています。

- (※5) プロアクティブ療法…症状が治まった後、ステロイド薬やタクロリムス軟膏を定期的に塗る事でぶり返しを少なくしようと先手を打って苔癬化を防ぐ治療法。
- (※6) ブリーチバス療法…消毒で使う次亜塩素酸ナトリウムを一定の濃度入れたお風呂に週2回程度入浴するもの

<保湿>

保湿剤には、「ワセリン」と「ヒルドイド」があり、注意が必要なのがワセリンです。ワセリンはただ塗るだけでは効果が薄く入浴後10分以内の水分がある状態でなじませた方がより効果的です。

<悪化因子の除去> = 原因が分かっている場合はこまめに取り除くこと

髪の毛やフケ、ホコリ、ダニの死骸などのハウスダストや花粉、食物、衣類、カビなど原因が特定できない時は、こまめな掃除と換気。エアコンやカーテン、家具、家電の上などホコリが貯まりやすい場所はホコリを立てない様に。カーペットやソファ、寝具、ぬいぐるみ等も同様にこまめな掃除を心掛けましょう。

<患者教育> = 衣・食・住を細かく見つめ直す

肌の乾燥に注意し衣類による肌への刺激を避ける。汗や皮脂などの汚れも炎症の原因になるので肌を清潔に保つ。痒みあっても掻きむしらない様に爪を短くし、熱いお風呂や長風呂にならないようにし強く洗い過ぎない。入浴後は保湿。睡眠不足やストレス、食習慣なども炎症を強くする要因になります。



アトピー性皮膚炎の主な対処法

①薬物療法

ステロイドなどの塗り薬



②スキンケア



③悪化させる要因の除去

ダニ、ほこりなどを取り除く

